

2023年度(令和5年)第2回教育課程編成委員会 議事録

日 時 2024年3月11日(火)14:00-15:00

場 所 旭美容専門学校 3号館

出席委員	株式会社ふらいむ シニアマネージャー	伊藤元 委員
	有限会社ラボ・ビューティ取締役	佐々木昌美 委員
	Hair shop OZ オーナー	小林裕也 委員
	Nail&cosmetic TOBIOKA オーナーネイリスト	前田佳苗 委員
	旭美容専門学校 校長	長谷川雅敏
	旭美容専門学校 教務部長・美容科学科長	河村久美(司会)
	旭美容専門学校 トータルエステティック科科長	豊田そのみ

書 記 旭美容専門学校 事務 駒倉美佳

議事次第

1. 開会

美容科科長 河村久美から開会の挨拶がなされた。
司会者となり配布資料の確認をした。

2. 学校長挨拶

校長 長谷川雅敏より、
会議への出席の御礼と、第75回卒業式で78名が卒業したことを報告。
美容業界の動向に詳しい企業の皆様、サロンの実務に精通した皆様から貴重な意見やアドバイスをいただき、本校の教科過程がより実践的で就職後も役立つものとなるよう活用させていただくので活発なご意見やご提案をいただけるようお願い。
またトータルエステティック科がキャリア形成促進プログラムの指定とされた。と報告。美容科、トータルエステティック科も学び直しを希望する社会人を対象とした教育訓練給付金の対象となることができる。学び直しを希望する方が学ぶ機会を増やしやすくなり、少子化が進み若者の県外流出が進む中、人材を沢山集める努力をしていきたいと挨拶がなされた。

3. 議事

一、美容科、トータルエステティック科の教育課程について

1) 前回教育編成委員会以降の取り組みについて

トータルエステティック科の取り組みについて

前回委員会で頂いた様々なご意見に対し、いくつか取り組んだ件について報告。

・(前回提案)お客様の要望を聞き取れるようにしていくことが大切

(取り組み)以前から来ていただいているお客様に対して昨年のカルテ情報などを皆で確認し今年度のカウンセリングに活かし、お客様の悩みにより添えるようにした。

(課題)自分の年齢とお客様の年齢に開きがあり要望に寄り添うことが難しく感じられることもあった。実体験がない為、教科書に沿った提案になってしまった。

資料①のお客様アンケートよりまだまだ希望に沿ったメニューを聞き取ることやアドバイスが苦手な課題である。引き続きうまく説明することよりお客様に興味を持つコミュニケーションこと。お客様に愛される人となる為にどうすればいいか考えていく

・(前回提案) iPadを活用するならSTサロンのネイルでお客様の希望するイメージを可視化するツールとしてみてはどうか

(課題)まだまだ学生のできる技術が限られている為 iPadでのイメージの可視化というより作成したチップを見て選んでもらうことになった。

・(前回提案) ネイルマシンをもっと取り入れては。

(取り組み) 授業では取り入れるようになった

(課題) スチューデントサロンは今年度、活用までに至らなかった。スチューデントサロンの日数の関係上オフまでの予約のとりにくさ。もっと練習の回数を増やすことも大切

・(前回提案) 営業力販売の勉強というよりプレゼン能力のアップを勉強しては。

(取り組み) 実際に導入したいと思う化粧品をメーカーに来ていただきプレゼンをしていただいた。化粧品による効果を皆で体験し価格を含め皆で話し合い決めた。

(結果) 来客数例年比 1.3 倍、12 日間で 210 名のお客様にご来店。技術売上 1.3 倍、店販売上 3 倍という結果となった。ネイルのお客様が例年比 2.58 倍の来客となった。

(課題) アンケート結果より希望に沿ったメニューとカウンセリングが弱い

資料②コンテスト出場、AJESTHE BEAUTY FESTIVAL2023 カウンセリング部門でグランプリを受賞
TAT ネイルコンテストではプラチナ賞、ゴールド賞を受賞。個々に頑張って取り組んでいた
とトータルエステティック科科長豊田より説明

(トータルエステティック科の取り組みについてのご意見)

・ ネイルに関してマシンが一番就職に有利になってくる。がサロンで使えるようになるまでには時間数、モデルが必要になってくる。と思うが即戦力となる為になんとか工夫してできるようになるといい。

(前田委員)

・ 大きなサロンではみんなで団結して目標に向けて頑張ることも必要になるが、その学年のカラーがあると思うのでリーダーになるタイプの子のカラーが強くなってしまおうと思うので団結することができず、個々に頑張るという年もある、それは教員が原因ではないと思う。

(前田委員)

➡ネイルとエステのブースを分けたことによりお互い頑張りがみえなくなりました。(豊田科長)

- ・ マシンの使用に関してネイルケアから入るといったことは可能か➡オフの技術は簡単のためオフから入り慣れていくほうがいい。ケアはお客様それぞれケースバイケースになるので難易度が増す。オフから扱い方を慣れていく方がベターだと思う (前田委員)
- ・ エステの実務しっかりと取り組んでいた様子がわかる。授業の際もしっかりした学生だと感じた。リーダー養成についてはそれぞれがおりこうさんであるため、他人を認められない、マイペースにしてしまうという難しさがある。サロンではサロンワークはチームなので入社式から全員で考える。共通テーマ「伊勢が好き」を掲げることにより、団結できているのでそういう共通目標をつくるといいのではないかと。(佐々木委員)
- ・ エステに関してコミュニケーションが難しい。という課題がある。新卒のかた、中途採用、お肌を通じて会話する。カウンセリングや販売ノルマや何を販売するのかを心配している学生が多い。そのために、ただ販売をするのではなくプレゼンをするようにする。サロンに来る日数とその間のケアとしてホームケアをおすすめするプレゼンテーションをする。お客様に理解してもらえると嬉しい。自信につながる。販売でなく目標であるというように言葉の選び方も大切。そういう言葉でスタッフのモチベーションを安定させる。人として進歩するために目標をつくる。これからもそのような授業を進めていってほしい。(伊藤委員)

美容科の取り組みについて

資料③美容科では独創性と芸術性を問う校内コンテストを実施。入賞した学生は特別審査員、特別アドバイザーの先生に指導していただきながらCHAのコンテストに応募するという授業を行っている。またインターンシップを2回に増やしたことにより学生は視野が広がり比較や選択肢も増える機会となった。また企業側としても複数の学生を知る機会や学生に知ってもらえる機会が増えたと思う。また社会人としての常識を身につけた人材を育てるという目的を持ち、生活ポイント制を導入しました。決められたルールを守る、報告や連絡を徹底するなど社会で役立つスキルを身につけるための取り組みを行っている。

その他、4人担任制を取り入れ一人の担任による属人化を防ぎ4人の教員全員が連携して足りない部分を補い合うことが出来るようになった。と報告。

資料「旭美容専門学校 学則 新旧対照表」よりカリキュラムの一部変更を報告。美容科1年と2年の授業の比率を変更。国家試験の迫る2年に学科を多く比重をおくことにした。またわかりにくい名前の授業をわかりやすい表記に変更した。

と美容科科长河村より説明

(美容科の取り組みについてのご意見)

・インターンシップ2回になったことにより、1回目のインターンシップを体験した2回目学生は、1回目のサロンで体験したことと別のことを体験することもでき、美容室で少しでも多くの経験をすることによって、就職後のイメージを強く持つことが出来るためプラスになると思う。企業側も学生と接することにより、

学生達が就職についてどういうことを考えているのか知る良い機会になった。2回は是非続けていってほしいと思う。

3回にしたいという意見もあるが➡多ければ多いほど学生にとってもいい体験にはなるけれども学生も慣れ気持ちのゆるみが出るため、そこに対しては学生指導をきちんとしておくといいと思う。

(小林委員)

2) 今後の取り組みについてのご意見、質疑・応答

資料④より

・iPadの活用について

現在美容科では作品撮影の前に自分のイメージを描いたり、参考となる資料をコラージュしたりしている。また写真に撮ったものを共有したりしている。(河村科長)

エステ科では検定対策の練習問題に取り組んでいる。スチューデントサロンではアンケートで活用しリアルタイムで結果を閲覧することを可能にした。予約内容も共有ファイルにて活用した。(豊田科長)

・エステのお客様もビフォーアフターの撮影などに抵抗がなくなってきた。動画も撮影もスタッフもお客様もみんなで楽しみながらできると思う。(佐々木委員)

・写真を参考にして来店される方も多い。そのためお客様の質も選べる写真の出し方というのがある。お洒落でふわっとした写し方をしている写真をアップしているサロンもあるが、技術力がはっきりしない為、クオリティを求められるお客様は来店しないと思う。上質な写真、技術力の伝わる写真を撮影しアップすると技術力を求めるお客様が来店する。アップする写真によってお客様を選ぶことが出来ると思う。どういうサロンを目指すのか、ターゲットはどのようなお客様なのか、ということを考えて写真を撮影しアップすると思う。また写真のとり方の授業があってもいいと思う。(前田委員)

・感性の向上を図るための学習について

美容科では伊勢神宮で歴史を学び2年ではミュージカル鑑賞などを行っている。(河村科長)

エステ科では自分ではできない体験をということで一流の接客を学ぶをコンセプトに鳥羽国際ホテルにサロン見学、アフタヌーンティー体験をした。バリ研修での資格取得、東京研修でのサロン体験。

来年度はビューティワールドに参加し最新の機械や商材に触れる機会を持つ予定(豊田科長)

・教員の技術力や知識を継続していくためのおすすめ研修

美容室では撮影に力を入れているサロンが増えている。ホットペッパーやホームページでのクオリティが求められ、集客にもかかわっている。実際のモデルを使用した撮影を実施している。若者の方が使い方は理解していると思う。撮って投稿するっていう作業に慣れている若いスタッフが多い。時代の差がある。旭美容専門学校のインスタグラムの投稿にも刺激をいただいている。(小林委員)

美術館鑑賞などによりお客様との会話も広がり信頼関係に繋がるというサロンもあるがそういう鑑賞をスタッフにすすめているか(長谷川校長)

・エステに継続して来店されるお客様はハイレベルなお客様が多いのでそういう鑑賞などの体験は大

切。また接客の上質化ができるような体験ができるところに行かれるといいと思う。 (佐々木委員)
サロンでは入社後 JR タカシマヤ・松阪屋など化粧品のコーナーやヴィトンやシャネルなど販売のコーナーを見てくるようにすすめる。購入する必要はないが接客の違いを体験してくるように言う。もちろん対応は人によって違う。良い接客をする方もいれば学生など若い人に対してパンッとあしらう人もいる。そういう体験によって学ぶ事が多い。年齢層によって対応の違うスタッフを見ることによって良いこと、悪いことなど学ぶことが出来る。お辞儀の仕方言葉遣い、所作なども学べ、良いものは学び取り入れ、悪いものは真似しないようにすることが出来る。お値打ちにできる体験。接客技術の体験できる。
(伊藤委員)

二、その他

1) 次回会議の開催日について

別紙日程調整表に可能日を記入していただき提出してほしいと述べた。

日時:2024年9月開催予定 場所:旭美容専門学校 3号館

2) 閉会挨拶

現場の貴重なご意見をありがとうございました。

本日頂いたご意見を、教育課程の編成に反映していきたいと思えます。

校長挨拶

お忙しいところ集まっただき、貴重なご意見をありがとうございました。

資料に美容科履修要覧、トータルエステティック科の履修要覧がございますので目を通していただき、こういう授業や内容があれば面白いなどということなどカリキュラムに対するご意見、アドバイス等ございましたら次回以降教えていただければと思います。

また来年度より校長の職を辞し学園長となることを報告。4月より新校長が就任するため、また挨拶をする旨を伝え、閉会の挨拶がなされた。

以上